

料金後納
郵便

ゆうメール

やまもり通信

NO. 251 2024.9 NPO法人恵那山みどりの会



7/10 坂下高校に出前講座を開催しました
皆さんで作った「竹あかり」と炭をもって記念写真

10/27(日) 『もりづくり・間伐体験会』を開催します。
詳しくは本誌8ページのチラシをご参照してください
* 10月より当会のホームページをリニューアルする予定です

ホームページ

恵那山みどりの会

検索



パリ・オリンピックも日本選手の大活躍で終わりました。金20銀12銅13と素晴らしい結果でしたね。開催地のパリには街並みの素晴らしさと歴史を感じる建物にも圧倒されました。今回で感じたのは、勝っても負けても選手たちの爽やかさでした。当然負けた選手はその直後には動揺は隠せませんが、でもそのあとのコメントは今までとは違う悲壮感はありませんでした。まだまだ若い選手が多いことは次に多いに期待が持てます。世界レベルが上がる中、努力と挑戦は続きます。

話は変わりますが、日本の一次産業はグローバル経済の中で苦戦が続いています。農業・林業・漁業は生産力・自給力とも低迷が続いています。我々が関係する林業はその中でも未だ具体的な道筋が見

えない状況です。しかし、漁業分野では光明が見えつつあります。

関口宏の「この先どうなる」というテレビ番組で日本の漁業について紹介がありました。1984年の漁獲量1287万tが2022年には僅か392万tと86%減まで落ち込みました。この結果価格が高騰し、また食生活の変化で魚離れが進むことになりました。

漁獲量減には①EEZ（排他的経済水域）の設定により漁場が狭くなったこと②温暖化の影響で黒潮が大きく蛇行し、産地の魚種が変わってきたこと③他国による乱獲などがあげられます。

しかし、世界人口の増加に伴う食糧問題解決のために、牛肉生産などの地球に負荷をかける動物タンパク食料から魚食への期待がある。世界の漁獲量において、2022年に初めて養殖漁業が天然（海面）漁業を上回ってといます。その養殖魚の多くは鯉やティラピア（いずみ鯛）、パンガシウス（ナマ

ズの仲間）などの淡水魚だということです。中国やインドネシア、カンボジアなどで日本の技術を活用して盛んに養殖されています。

一方、日本ではかつての大漁文化の反省のもと、魚の漁獲枠の拡大により資源保護を推進しながら養殖技術の開発を進め、ウナギの完全養殖技術の確立、小型陸上養殖設備の開発により、お店の裏で養殖して産直状態で提供できる設備、岡山理科大学では「好適環境水」を開発し、海、淡水のいずれの魚も一つの水槽で生育できる環境を作れる技術を確立しました。

日本は資源が少なくても技術力でそれをカバーする力があります。残念ながら、林業分野では政官学とも現状の課題に対する根本的な解決を示せないでいます。企業も、CO2削減努力イメーリアップキャンペーンをするだけで、林業を経済に取り込む努力がないように思う。森林大国の日本なのに、努力と挑戦を期待したい。

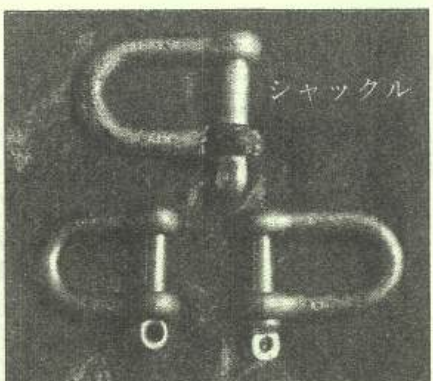
森へのさだめ

早川宏之

器材取扱い勉強会

七月二十一日(日) 八名

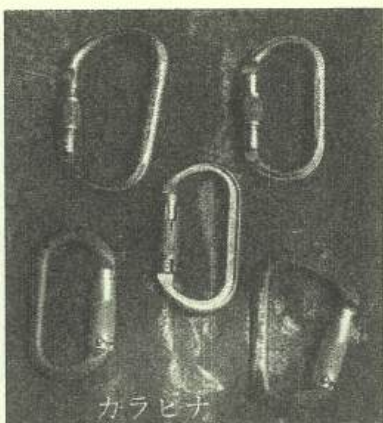
シャックルってなに？カラビナってなに？と、「やまもり通信」でお知らせしたところ、名古屋から遠路参加いただいたき梅雨の明けた暑い日差しの中、な



すの森の木の陰で各器材の取扱い方法等について勉強会を開催した。各器材の名前と使用時の許容荷重、取扱い方法等につ

いて勉強した。

各器材に示されている数字が、シャックル、台付け等の場合は使用時の許容荷重であるが、カラビナ、ロープ等は、破断荷重が示されている。



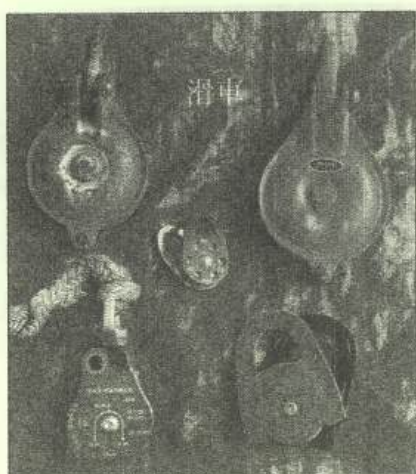
つまり、カラビナ等は道具として使用する場合、人体を保護するため

る場合とで安全率(係数)が違っているため、使用条件による安全率内で使用しなければならぬことを学んだ。



その後、台付けの取付け、シャックルによるロープの接続、滑車の使用

方法等について周囲の立ち木を利用して実施した。



お知らせ

【もりづくり・間伐体験会】を計画しております。木を伐ること(間伐)は森を健全に育てることに繋がります。

風を入れ、光を入れ、光合成を促し丈夫な森を作ります。森を作り、森を育て、森を守る方法を体験しましょう。

十月にチラシを回覧予定です。日時：令和六年十月二十七日(日) 場所：福岡 桧植林地

六月二五日(火)曇り 六人
七月九日(火)曇り一時小雨 六人
七月二三日(火)晴れ 六人
炭焼きの準備を始める

今回の炭材は、薪材として高山地内で春に伐倒したアベマキ・コナラの枝を使用した。なるべく変形していない真っ直ぐな部分を選び、九十cmに切り、窯内に隙間無く太い方を上に詰め込んだ。レンガを積み上げ焚口を作り、点火するのみとなった。しかしこの猛暑続きで火入れを躊躇している。

植樹その後

「やまもり通信」を創刊号から暇に任せ見ていた。その中で森の学校等旺盛な活動を知ることが出来、植樹も「ふれあい牧場」「恵下」の二件行っていた。その後どのようなようになっているだろうか現地を見てきました。



2003年5月24日 植樹風景
子供ら30人参加。ナラ100本、シデコブシ20本、トチノキ10本を植樹。



2004年4月10日 植樹参加者

ナラ、シデコブシ等約350本植樹。20年経った現地は木々がうっそうとしていました。リスも生息しているそうです。植樹された方は、現地を訪れたらどうか？



4月14日 現地

植樹場所は、ふれあいゾーン辺りと思われませんが、現地に10数本の木が見られた。この木が植樹した木かな？



2024年8月6日 現地

第一東学童竹の器づくり 8/2

河合博臣

第一東学童28名 指導員6名
スタッフ2名

森の学校はつばっぱの活動です。コナラ渦で活動が思うようにできなくなり、はっぱはつばを忘れられるのではと心配でしたが、第一東学童から「流しソーメンをしたいのでできますか」と依頼がありました。しばらくして、今の状況では「難しい」との断りの連絡を受けました。保育所で昼食に「そうめん」をしますので、その時に竹の器で食事をしたいので、以前に作りました竹の節の器をつくることになり竹のこぎり及び紙ヤスリ等の材料、道具を準備しました。

千旦林辻原で竹藪整備とタケノコ掘りの会場にある竹藪で整備を兼ねて真竹を学童と指導員の数の40節分用意して器を作り、8月2日(金)に届けました。

学童に竹の上下の見分け方を知識と



竹を切る位置を低学年に指導

して知ってもらい、竹工作の時に逆さまに使用しないよう話しました。教室にブルーシートを敷き、4グループに分かれて、大きな器や小ぶりの器など各々好きな大きさの器を切り出し、紙ヤスリで切り口を滑らかにして完成しました。家に持ち帰りMY箸を作った子もいましたよ。また器づくり当日休んだ子も余分に作った器と箸でソーメンを食べましたと教えてもらいました。



紙ヤスリで切口を仕上げ

成果があり、嬉しく思います。



ノコギリで切断奮闘中

7/10坂下高校に出前授業

高校の地域探求講座の一環で、高校より「竹の生態について」をテーマに講座の依頼がありました。当会ではかつてこれをテーマにした市民企画講座を企画した経緯があり、ホームページにもこのチラシを載せていました。これを先生がご覧になり、当会に講座の要請がありました。

地域周辺には竹林の荒廃が目立ちこの問題について考えようと企画されたものです。生徒さん6名と当会スタッフ5名で取組みました。

当日は午後から雨の予想で、午前中に竹の伐採体験と教室で「竹の生態について」の座学を実施。事前に瀬戸のタケノコ生産組合の方の「タケノコ生産」についての講義があったそうです。

午後からは案の定、雨が降り始

め、軒のある野外で「竹あかり」の作成と、竹炭づくりに取り組みました。

竹の伐採体験では高校グラウンド横の竹林内で、早川森

づくり部長の指導で、2名1組で各自1本程度の竹を手ノコで伐採。架かり木になり苦戦しました



伐採の大変さを体験してもらいました。その後、小型チップパー機で粉砕処理を見学。チップの効能や用途を学習。

場所を教室に移し、「竹の生態について」パワーポイントで河内理事長から説明しました。竹の種類や、竹林の荒廃における問題点、各地での取り組み状況や竹の活用事

例などを紹介し午前の講座は終了しました。

午後は軒のある建屋に移動し、河合事務局長の指導で「竹炭づくり」と「竹あかり」に挑戦。先ずは伐った竹片や松ぼっくりなどの材料を缶に入れ、卓上コンロで炭づくりを体験。並行して、竹あかりの製作に着手。伐った竹を手ノコで節を底にして各自で裁断。その後図柄に合わせて、インパクトドライバーで穴あけ。これには各自の性格とセンスが現れました。途中、竹炭の出来具合をチェックするなど忙しい時間が過ぎていきます。

それでも何とか皆さんで竹炭、「竹あかり」を完成し、それぞれ自分の作品を持ち帰ってもらいました。

こういった出前講座は、若い世代に周りの自然を知ってもらえると同時に当会の取り組みについての理解をしてもらえる良い機会となるので、今後とも積極的に取り組みたいと思います。

投稿

発想を転換して町おこしを！

*リニアを離れて豊かな

自然と文化を生かす*

柴田弘明

リニア関係の工事に関係する企業やリニアによる来客に期待をかける観光協会の皆さんは一日も早い開通を望み、行政も支援してきました。しかし開通は大幅に遅れ、目途さえ立てられない所へ来ている。

工事が始まると有害物質を含む大量の土砂の捨て場問題や掘削による流水の問題が井戸水やため池の濁水問題に発展する等、住環境にも大きな影響が生じることになり、JR側の対応の悪さもあり、静岡県の心配事が現実化してきたのである。

丁度この紙面を書いている時にパリオリンピックが始まり、その運営には驚くような発想の展開がある。開会式は野外のセー又川で

船で入場するなど、問題も指摘される点はあるが、資金面、環境面にも配慮されたもので、最近の商業化したオリンピックに対し学ぶ点も多い。

中津川は自然の宝庫で歴史や文化の遺産も多彩

リニア関連工事の進展によって坂本の環境や歴史がなくなり、赤茶けた山肌や舗装された路面ばかりとなり、人影のまばらな景色が浮かんでくる。軌道修正は今からでも可能であり、その根拠は6月議会での何人かの質問の内容からも望みをもって感じられるからです。

★恵まれた自然の活用

富士見台や根ノ上高原、苗木城址等、環境整備を図り、アクセスの向上を図る。シテコブシやハナノキ等の希少植物の保護保全と広報の充実。苗木・福岡地域にある休耕地を一日菜園、季節菜園への活用と空き家対策との連動。

★文芸・歴史的遺産施設の拡充
全国に知られる歴史遺産等新たな発掘見直しの他、当市が誇りとする熊谷守一、前田青邨氏などの作品を鑑賞できる施設を開設し、観光客の立寄り場を増やし文化都市を目指す。中山道沿線の整備により宿場町のイメージづくり

★想定外の企画

・観光面として市内に伝わる文楽や地歌舞伎が出来る小規模施設の興行により観光と歴史文化を結び。
・四ツ目川流域に安定した水量を確保し流域に上流から下流へ小水力発電施設を作り、中山道の照明利用に生かし、電力やエネルギーの学習の場として活用。このような企画は行政のみでは困難であり、市内全域から多くの広い層からなる話し合いの場を作り、議論を積み上げ順次実現可能な領域から取り組めば素晴らしい町おこしに繋がり、夢のような課題提案をした。町づくりには多くの人の知恵や協力が必要である。

2024年 9 月・活動/打合せ予定						
日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
1日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
8日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
10日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
16日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
22日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
24日	水	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
25日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	
			炭窯からの炭だし作業(作業日時は未定)	雑木林窯	会員・一般	
10月 イベントと森の学校の予告						
	行事内容		会場		備考	
27日(日)	もりづくり・間伐体験会		福岡・桧植林地			
日						
日						
日						
編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連あるご意見などをお寄せください。 関係の深い記事など通信に記載します。 イラストなどもお寄せください。			発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会 理事長 河内 龍二 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13 (TEL・FAX 0573-65-1366) 13:00~16:00(水・土・日・祭日休み) メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp			

もりづくり・間伐体験会

NPO法人 恵那山みどりの会

木を伐ること(間伐)は森を健全に育てることにつながります。
風を入れ、光を入れ、光合成を促し丈夫な森を作ります。
土砂災害を防止し、きれいな水、美しい空気を作ります。
自分の山の整備(間伐)やボランティア活動にも役に立ちます。
森を作り、森を育て、森を守る方法を体験しましょう!

参加募集内容

- 開催日 10/27(日)
- 対象者 高校生以上(中津川市以外の方も歓迎します)
女性の参加も大歓迎!
- 参加費 1500円/名
- 募集人員 10名 締切 10/17(木)定員になり次第締切ります
- 会場 福岡 桧植林地 場所をご案内します
- 集合時間 9時00分(待合せ場所) 15時30分終了予定
- 内容
 - ・間伐実施個所と未実施個所の違いを体験
 - ・チェーンソーにより間伐体験
 チェーンソー、ヘルメットをお持ちの方はご持参ください。
お持ちでない方はお貸しします。
後援:中津川市教育委員会(予定)

申込先 NPO法人恵那山みどりの会
電話・FAX 0573-65-1366
(受付 月・火・木・金の午後1時から4時)
E-mail midorinokai@wine.ocn.ne.jp
又は担当:早川まで 携帯 090-3555-1752
E-mail hkmya@k5.dion.ne.jp

2024年 10月・活動/打合せ予定

日	曜日	時間	活動内容	会場	対象	備考
6日	日	13:30	役員会	事務所	担当・役員	
8日	火	9:00	定例作業日	雑木林	会員・一般	
13日	日	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
20日	日	13:30	通信編集会議	事務所	会員・一般	
21日	月	9:00	ヤマガキ隊	なすの森	会員・一般	
23日	水	13:30	通信発行	なすの森	会員・一般	
27日	日	9:00	もりづくり・間伐体験会	福岡・椋植林地	会員・一般	
30日	水	13:30	企画会議	事務所	担当・役員	

11月 イベントと森の学校の予告

	行事内容	会場	備考
日			
日			
日			
日			

編集部連絡:原稿締切は毎月20日です。
 また、手書き原稿は「河内」までFAX等で提出してください。
 森林、資源、地域の問題などで当会の活動に関連ある
 ご意見などをお寄せください。
 関係の深い記事など通信に記載します。
 イラストなどもお寄せください。

発行責任者:NPO法人恵那山みどりの会
 理事長 河内 龍二
 事務所 〒508-0042中津川市西宮町2-13
 (TEL・FAX 0573-65-1366)
 13:00~16:00(水・土・日・祭日休み)
 メールアドレス:midorinokai@wine.ocn.ne.jp